

した。TGHA が陽性の場合には50%以上の強陽性を示した。以上より RI-in vitro 法は MCHA 測定にも応用できることが明らかにされた。

次に Tg の測定に関する基礎的検討では、incubation 時間、温度、再現性、回収率、稀釈試験、抗体の特異性などにつき検討した。

その結果、測定法としての基礎的条件を十分に満足し、抗体の特異性も高く指示書どおり行えば良いことが判明した。臨床的応用として正常値の設定を行った。その結果 Tg 値は対数正規分布を示し女兒(1~10歳)の Tg 値が 43.4 ± 31.3 ng/ml (Mean \pm SD) と他に比べ有意に高値であることが判明した。これは中年女性における抗 Tg 抗体陽性の橋本病の遠因になる可能性を示唆しており興味深い。TRH test に対し2時間まで無反応であった。各種甲状腺疾患において、甲状腺ホルモン合成促進状態および甲状腺が破壊された時 Tg 値が高値になることを示した。Tg 測定は TBG の影響をうけていないので妊娠の甲状腺機能検査法として有用であること、さらに甲状腺腫瘍マーカーとして有用であることを報告した。

21. ラグビー選手の血中ミオグロビン RIA (その2)

瀬戸 幹人 今堀恵美子 立野 育郎
(国立金沢・放)
分校 久志 利波 紀久 久田 欣一
(金大・核)

今回は1)筋外傷の程度が異なると思われる選手で Mb の変動に差があるか?2)一定の運動を毎日くり返した場合の Mb の変動を調べることを目的として、金大医学部ラグビー部員を対象として、筋外傷の程度が激しいと思われる FW 2名、その程度が軽度と思われる BK 2名から6日間の全合宿期間中に、起床時と就寝前に毎日採血し、Mb を RIA して同時に CPK, LDH, GOT, GPT も測定した。Mb 測定は“ミオグロビンキット「第一」”を用いてルーチンの測定法で行った。

結果は Mb は夜が高値で翌朝は低下するジグザグ状の変動をくり返しつつ、合宿開始2日目の夜に最高値を示し、以後漸減したが、FW 2名の全測定値の平均は 164.3 ng/ml に対して BK 2名の平均は 101.7 ng/ml で5%の危険率で有意差をみた。CPK, LDH のピークは Mb より1日遅れて3日目の夜であったが、GOT, GPT は正常上限を軽度で越えた程度で変動はほとんどなかつ

た。CPK, LDH, Mb は全測定値がケタはずれの異常高値を示したが、Mb と CPK, LDH は比較的良好に相関をみた。

今回の測定からスポーツにおける筋肉の運動・外傷でも Mb は CPK よりも鋭敏な指標となりうることで、トレーニングによる運動への adaptation の存在が示唆された。

22. 血清フェリチンの分泌動態について

—正常と癌疾患の比較から—

山田鎌太郎 金子 昌生 (浜松医大・放)
真坂美智子 吉見 輝也 (同・2内)
泉 正和 (同・検)

鉄代謝異常を検出する指標として知られているフェリチンは、各種悪性疾患で高値を呈することが報告されるようになり、腫瘍マーカーとしての意義が注目されている。

“RIA-gnost Ferritin”と“SPAC Ferritin”を用い、各種疾患における測定値の差について検討した。なお、検体はあらかじめ6倍希釈しておき、測定に供した。

正常値は“SPAC Ferritin”で女性 $18 \sim 70$ ng/ml、男性 $55 \sim 120$ ng/ml、“RIA-gnost Ferritin”では女性 $51 \sim 163$ ng/ml、男性 $108 \sim 375$ ng/mlであった。“RIA-gnost Ferritin”で他の報告に比し高値であるのは希釈検用を用いているためと考えられた。

RIA-gnost Ferritin の cut off 値を 400 ng/ml “SPAC Ferritin”のそれを 200 ng/mlとした場合の各種疾患の陽性率は、肝癌70%、消化器系癌18%、生殖器系癌39%、肝硬変症18%であり、kit間における陽性率に差異は認められなかった。しかし“SPAC Ferritin”と“RIA-gnost Ferritin”における測定値の分布状態は、健康者と癌患者とは明らかに異なっており、両者の kit を併用することで、悪性疾患の判別がより適切になるものと考えられた。

23. 心臓、腎臓、脾臓および肺臓中での ^{67}Ga の結合物質

安東 醇 安東 逸子 平木辰之助
(金大・医短)
久田 欣一 (金大・核)

われわれは癌および肝臓中での ^{67}Ga の結合物質はへ